

「働き続ける」選択肢が未来を拓く

～持続的発展のカギは中核市にあり～

サイバー適塾 第18期
行財政改革グループ

高齢化や東京圏への一極集中により、社会保障費の財政圧迫といった諸問題が、地方でより切迫した課題となる。これらの課題解決に向け、地方のエンジンである中核市の活性化が日本の持続的発展には不可欠と捉え、長期的視点で中核市が目指すべき姿を想定し、提言を行う。

提言の背景

人口動態の変化

少子化・超高齢化などの「人口動態の変化」により、現行の社会保障制度が危機的な状態に陥っている

東京圏一極集中

資本・資源・活動が東京圏へ集中し、地方は、人口減少や経済悪化など、悪循環に陥っている



社会構造の変化により、従来型の経済システムを維持することが、特に地方で困難になっている

課題解決にむけて取るべき戦略



よりよい社会を創る視点で、未来を構想し、人が生きる喜びを追求できる目標を定める

ムーンショット

近視眼的な施策、達成しやすいKPIを設定するのではなく、長期視点でより豊かな暮らしを享受できる魅力的な目標を設定し、多くの力を結集し目標実現を目指す。

未来を構想

技術革新

AI, IoT, ロボティクスに加え、情報通信技術や交通のさらなる発達を捉える

価値観

ミレニアル・Z世代の価値観が社会に変革をもたらす。自らの価値観を大切に、多様性を受容し、課題解決に取り組み、幅広い世代に価値観の変容を促す

提言

「働き続ける」選択肢が未来を拓く！

～持続的発展のカギは中核市にあり～

働き続けるメリット

- 個人：こころの豊かさの追求（生きがい、収入確保、健康維持）
- 企業：持続的発展の追求（労働力確保、スキル獲得、多様性導入）
- 行政：持続的発展の追求（税収増加、社会保障費削減、地域活性化）

ターゲット

- 中核市：人口や経済規模があり、周辺地域への強い波及力
- 51-55歳 企業人：セカンドキャリアの起点となる年齢

働き続ける意欲を持つ人を惹きつけ、中核市が持続的に発展するために…

1. 今ある仕事を活かして、働き続けられる街

- 事業継承支援 ～マッチングを実施するとともに、移住、継承教育等の費用を支援～
- スタートアップチャレンジ支援 ～土業の積極活用、税制優遇やオフィス探しを支援～
- 空き家の提供支援 ～就労継続で家賃を補助。リフォーム費優遇で地元産業へ還元～

2. 産業を新しい価値観で活性化し、雇用を創出している街

- ミレニアル・Z世代の就労マッチングでセカンドキャリアの雇用を創出
～新しい価値観を企業に持ち込む～
～新しい価値観を発展の原動力として企業の雇用を生み出す～

3. “意識せず”、健康で自分らしく働き続けることができる街

- その街に暮らすだけで意識をせず、健康を管理
～スポーツ施設や文化施設などで健康データを自動取得～
- 地域での健康見守り
～抽出したデータから病気の兆候をつかみ、食事、運動含めた包括的な見守り～

4. 地産地消に取り組み、環境負荷を小さくした街

- 輸送起因の環境負荷を低減
～地産地消のもう一段の取り組み深化～
- 地域が保有する資源による再生可能エネルギーの積極活用
～小水力発電、バイオマス、温泉発電等を多様なファイナンススキームで実現～